

- 問1 弥生時代の祭祀で使われた青銅器のうち、釣鐘のような独特の形状をした道具について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 滋賀県公立入試 類似)
1. 非常に鋭い刃を持ち、敵と戦うための武器や木材を加工する工具として使われた。

2. 仏教の伝来とともに寺院に設置され、人々に時刻を知らせるために打ち鳴らされた。

3. 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。

4. 土でつくられ、古墳の周囲に並べることで死者の霊を慰める役割を果たした。
- 問2 弥生時代の高床（式）倉庫において、柱と床が接する部分に「ネズミ返し」と呼ばれる板状の部材が取り付けられた理由として、当時の社会背景を踏まえた説明はどれですか。 (2021年 佐賀県公立入試 類似)
1. 定住生活が始まったことで、家畜として飼育し始めた動物が建物内に入り込むのを防ぐ必要があったから。

2. 集落間の争いが激しくなったため、床下に敵が潜り込んで火を放つことを防ぐ防御壁が必要だったから。

3. 稲作の開始によって収穫した食料を蓄えるようになったため、その貯蔵分を害獣から保護する必要があったから。

4. 大陸から新たな建築技術が伝来し、建物の耐震性を高めて大規模な集落の崩壊を防ぐ必要があったから。
- 問3 弥生時代の食生活の変化をまとめた資料では、この時期に稲作が広まったことが記されています。これと同じ時代、1世紀の日本の様子について述べた、中国の歴史書『後漢書』東夷伝の内容として正しいものを選びなさい。 (2022年 広島県公立入試 類似)
1. 推古天皇の使者として小野妹子が隋に渡り、対等な外交を求めた。

2. 倭の奴国の王が後漢に使いを送り、光武帝から金印を授けられた。

3. 卑弥呼が魏の皇帝に使いを送り、「親魏倭王」の称号と金印を授けられた。

4. 倭の五王が中国の南朝に使者を送り、朝鮮半島での軍事的地位を認めさせた。
- 問4 千葉県茂原市の宮ノ台遺跡から出土した、弥生時代中期の代表的な土器である「宮ノ台式土器」が作られていた頃の世界情勢について、日本の状況と関連付けて説明したものとして正しいものはどれですか。 (2023年 千葉県公立入試 類似)
1. 日本では仏教が伝来し聖徳太子が政治を行っていたが、世界ではメソポタミアでハンムラビ王が法典を制定した。

2. 日本では狩猟や採集が生活の中心であり、世界ではエジプト文明においてピラミッドが建設されていた。

3. 日本では鉄器の使用が始まったばかりであったが、世界では中国の殷（商）が文字や青銅器を使用し始めていた。

4. 日本では稲作が定着し、地域ごとに特色ある土器が作られる一方で、西洋ではローマ帝国が地中海を支配していた。
- 問5 「魏志倭人伝」に記されている、3世紀頃の日本（倭）の社会や政治の様子に関する説明として、当時の状況を正しく述べているものを選びなさい。 (2025年 長野県公立入試 類似)
1. 武士団が結成され、各地の荘園を管理するために地頭が派遣されていた

2. 律令制度が導入され、戸籍に基づいて全ての人々に口分田が割り当てられていた

3. 仏教が伝来した直後であり、各地で巨大な寺院の建設が始まっていた

4. 大人（たいじん）と下戸（げこ）という身分の差があり、租税を納める仕組みがあった
- 問6 稲作が朝鮮半島から伝わり、人々の生活が変化した時代に使用された道具の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2018年 北海道公立入試 類似)
1. 豊作を祈る祭りなどのために、青銅器である銅鐸が使われた

2. 日本独自の貨幣として、富本銭が発行された

3. 魔除けや食物の豊かさを祈り、土製の人形である土偶が作られた

4. 権力者の墓の周囲に並べるために、埴輪が作られた
- 問7 弥生時代の遺跡から出土する銅剣や銅鐸（どうたく）などの青銅器について、日本における当時の主な使用目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2021年 佐賀県公立入試 類似)
1. 大陸との交易において支払いに用いられる、価値の基準となる貨幣として使われた

2. 木を切り倒したり土を掘り起こしたりするための農具として使われた

3. 戦場において敵を攻撃したり身を守ったりする実戦用の武器として使われた

4. 集落の祭祀（さいし）や儀式において用いられる祭りの道具として使われた
- 問8 奈良県などの古墳から出土する銅鏡などの考古資料は、当時の中国の王朝から邪馬台国の女王へ贈られたものである可能性が検討されています。中国の歴史書には、卑弥呼が「親魏倭王」の称号とともに百枚の銅鏡を授かったという記述がありますが、このとき外交関係を結んでいた中国の王朝名を答えなさい。 (2021年 奈良県公立入試 類似)
1. 魏

2. 秦

3. 隋

4. 唐
- 問9 当時の日本（倭）では多くの小国が分立して争いが続いていたことが中国の歴史書に記されています。このような状況下で、邪馬台国の卑弥呼が魏に使節を送り、皇帝との外交関係を築いた主な目的は何ですか。 (2019年 広島県公立入試 類似)
1. 魏の進んだ鉄器製造技術を独占することで軍勢力を高め、武力によって一気に日本列島を統一するため

2. 大陸で広く信仰されていた仏教を日本に導入することで、宗教の力によって国内の戦乱を鎮めるため

3. 魏の皇帝から倭王としての国際的な承認を得ることで、国内の他勢力に対して優位に立ち、支配を安定させるため

4. 魏が定めていた律令などの法律や官僚制度を取り入れ、天皇を中心とする中央集権国家の仕組みを整えるため
- 問10 弥生時代、稲作が西日本から東日本へと普及して食糧の蓄えができるようになると、各地で土地や水をめぐる争いが起こり、小さな国々が誕生しました。こうした中、倭の奴国の王が中国の王朝へ使いを送った目的や背景として最も適切な説明を選びなさい。 (2022年 広島県公立入試 類似)
1. 土偶を用いた独自の祭祀を中国に認めてもらうことで、大陸での宗教的な影響力を拡大しようとした。

2. 中国の後漢の光武帝から金印を授かることで、自らの支配の正当性を背景に権力を強めようとした。

3. 鉄製農具や須恵器の製作技術を独占し、縄文時代から続く狩猟・採集の生活をより豊かにしようとした。

4. 巨大な前方後円墳を築造するための最新技術を導入し、日本列島全体の統一を早急に成し遂げようとした。
- 問11 「漢書」地理志や「魏志」倭人伝などの中国の歴史書には、倭の女王である卑弥呼や、それ以前の倭の小国の王が、中国の皇帝に使者を送ったことが記されています。このような古代の日中外交において、日本の支配者が中国の皇帝から称号を授けようとした主な目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2024年 宮崎県公立入試 類似)
1. 中国国内でのキリスト教の布教を許可してもらい、宗教的な指導者としての地位を確立するため。

2. 中国の皇帝から直接的に領土を譲り受け、日本列島を中国の行政区画の一部として統治するため。

3. 中国の皇帝と対等な立場で軍事同盟を結び、高句麗や新羅を共同で攻撃するための約束を取り付けるため。

4. 中国の強力な武力や権威を背景に、日本国内の他の勢力に対して自らの支配の正当性を示すため。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。	釣鐘型の青銅器は「銅鐸（どうたく）」と呼ばれます。その表面には、鹿を狩る様子や稲作の風景、高床倉庫などが描かれていることがあり、当時の生活を知るための貴重な資料となっています。古墳時代に作られた埴輪や、実用的な武器としての鉄器とは役割が明確に異なります。
問2	答え 3 稲作の開始によって収穫した食料を蓄えるようになったため、その貯蔵分を害獣から保護する必要があったから。	弥生時代の大きな特徴は、本格的な稲作の開始により食料の「貯蔵」が可能になったことです。蓄えられた米は人々の命をつなぐ重要な資源であり、これをネズミなどの害獣に食い荒らされることは、集落の存続に関わる重大な問題でした。そのため、物理的に侵入を遮断する「ネズミ返し」という構造が必要とされました。このような食料の蓄積は、後の貧富の差や身分の違い、集落同士の争いにもつながっていきます。
問3	答え 2 倭の奴国の王が後漢に使いを送り、光武帝から金印を授けられた。	紀元1世紀、現在の福岡県付近にあったとされる「奴国」の王は、後漢の光武帝に使者を送りました。その事実は、江戸時代に志賀島（福岡県）で「漢委奴国王」と刻まれた金印が発見されたことによって裏付けられています。3世紀の卑弥呼（魏志倭人伝）、5世紀の倭の五王（宋書）、7世紀の遣隋使（隋書）など、中国のどの王朝の時代に、誰がどのような目的で交渉したかを区別することが重要です。
問4	答え 4 日本では稲作が定着し、地域ごとに特色ある土器が作られる一方で、西洋ではローマ帝国が地中海を支配していた。	宮ノ台式土器が作られた弥生時代中期は、日本列島で稲作を基盤とした社会が確立し、小国が形成され始めた時期です。これと同じ時期、世界の西側ではイタリア半島から勢力を伸ばしたローマが、北アフリカや西アジアを含む地中海一帯を版図に収める巨大な帝国を築いていました。歴史学習においては、日本の時代区分と世界の大きな出来事を結びつけて理解することが重要です。
問5	答え 4 大人（たいじん）と下戸（げこ）という身分の差があり、租税を納める仕組みがあった	『魏志倭人伝』の記述からは、当時の倭には「大人」や「下戸」と呼ばれる明確な身分階級が存在し、租税（税金）の徴収や市場での交易が行われていたことが分かります。これは、単なる集落の集まりではなく、ある程度組織化された国家としての仕組みが整い始めていたことを示しています。
問6	答え 1 豊作を祈る祭りなどのために、青銅器である銅鐸が使われた	稲作が始まり、金属器が使用され始めたのは弥生時代です。この時代には、実用的な鉄器とともに、祭祀用として銅鐸などの青銅器が作られました。土偶は狩猟採集中心の縄文時代、埴輪は古墳時代、富本銭は飛鳥時代のものです。
問7	答え 4 集落の祭祀（さいし）や儀式において用いられる祭りの道具として使われた	大陸から日本列島へ伝わった青銅器は、その多くが実用性を超えて大型化したり、非常に薄く作られたりする傾向がありました。これは、実際に物を切る・突くといった武器としての用途よりも、集落の豊作を祈る儀式や、共同体の団結を確認するための祭事において、富や権威を象徴する「祭器（さいき）」として重宝されたことを示しています。
問8	答え 1 魏	当時の邪馬台国と中国との関係は、歴史書などの文字資料だけでなく、出土した銅鏡などの物的な資料からも研究されています。卑弥呼が使いを送った魏という国は、当時の日本（倭）に対してその権威を認める証として鏡や金印を与えました。出土した銅鏡と文献の記述を照らし合わせることで、当時の東アジアにおける交流の実態や、日本列島における国家形成の過程が明らかにされようとしています。
問9	答え 3 魏の皇帝から倭王としての国際的な承認を得ることで、国内の他勢力に対して優位に立ち、支配を安定させるため	弥生時代の日本列島は、多くの小国が争う「倭国大乱」と呼ばれる混乱期にありました。卑弥呼は、大陸の強国である魏から公式に「倭の王」として認められることで、自らの地位の正当性を高めようとしていました。授かった金印や銅鏡を国内の有力者に分け与えることは、自らの権威を可視化し、他の小国を従わせるための高度な外交手段でした。なお、仏教の伝来や律令の導入は後の飛鳥時代以降の出来事です。
問10	答え 2 中国の後漢の光武帝から金印を授かることで、自らの支配の正当性を背景に権力を強めようとした。	弥生時代の日本では、稲作の普及に伴って貧富の差や対立が生まれ、各地に小国が形成されました。1世紀の57年、倭の奴国の王は中国（後漢）の光武帝に使者を送り、「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けられました。これは、当時文明の進んでいた中国の皇帝に認められることで、他の小国に対する優位性を保ち、自らの支配権を強化する狙いがありました。選択肢にある鉄製農具や須恵器の普及、前方後円墳の築造は後の時代の特徴であり、土偶は縄文時代の文化です。
問11	答え 4 中国の強力な武力や権威を背景に、日本国内の他の勢力に対して自らの支配の正当性を示すため。	当時の日本（倭）は多くの小国が並立しており、各勢力の首長は自らの支配力を誇示し、国内を安定させる必要がありました。先進文化を持つ中国（漢や魏など）の皇帝から「親魏倭王」のような称号や金印を授かることは、周辺勢力に対して「自分こそが正当な統治者である」と主張するための強力な裏付けとなりました。